

歯の相談室



あじま診療所歯科 歯科医師
右近 快平

妊娠性歯肉炎

歯周病の主な原因はプラーク(歯垢)中の細菌といわれていますが、妊娠性歯肉炎では女性ホルモンが大きくなることでされており、特にエストロゲンというホルモンがある特定の歯周病原細菌の増殖を促す(栄養となる)ことが知られています。

女性ホルモンは妊娠終期には月経時の10〜30倍になるといわれており、このため妊娠中期から後期にかけて妊娠性歯肉炎が起こりやすくなります。ただ、基本的には清潔な口の中では起こらないか、軽度ですみますので、妊娠中は特に気をつけてプラークコントロールを行きましょう。また親知らず(智歯)があるとその周囲も腫れやすくなるので、注意が必要です。

